

## 2018年度 一般社団法人日本臨床化学会 第3回理事会（新旧理事会）議事録

日 時：2019年3月30日（土）14：30～16：30

場 所：フクラシア品川（高輪口）会議室A

議 長：前川真人（代表理事）

出席者：前川真人（代表理事）、大久保滋夫、矢富 裕、山内一由、山田俊幸（以上 常務理事）  
植田 成、多田正人、康 東天、黒田直敬、齋藤邦明、坂本秀生、菅野光俊、瀧田悦子、  
松本祐之、眞野成康、山口哲史、吉田 博（以上理事）、  
岩谷良則、戸塚 実（以上 監事）、  
三井田孝、三浦雅一（以上 新常務理事）、池田勝義、川崎健治、柴田綾子、仁井見英樹、  
村上正巳（以上 新理事）

欠席者：恵 淑萍、細萱茂実（以上 理事）、川野克己、小谷和彦（新理事）

新旧理事出席者数 24名（新旧理事数 28名）、全出席者数 26名

本会名誉会員の伊藤 啓先生の逝去（2019年2月25日）を悼み、黙祷が捧げられた。

議 題

### 1. 開会の辞（前川 代表理事）

- ・新旧理事総数28名中25名の出席があり理事会は成立した。
- ・代表理事より開会の挨拶があった。

### 2. 議事録確認者の指名（前川 代表理事）

- ・斉藤 理事、坂本 理事が指名された。

### 3. 報告事項

#### 1) 庶務報告（矢富 理事）

##### ①学会会員現状報告

- ・2019年3月20日時点の正会員は1,173名、正会員（評議員）は157名、正会員（30歳未満）は130名となっている旨報告がなされた。

##### ②事業報告・事業計画

- ・2018年8月の年次学術集会以降に開催された会議、学会誌発行などの報告ならびに新旧理事会以降に開催予定の年次学術集会、会議、学会誌発行等について承認された。

#### 2) 第58回年次学術集会報告（山内 理事）

- ・第58回年次学術集会の決算について報告がなされ承認された。

#### 3) 第59回年次学術集会準備状況報告（眞野 第59回年次学術集会長）

- ・第59回年次学術集会のプログラムなどについて報告がなされた。

#### 4) 共催シンポジウムについて

##### ①第66回日本臨床検査医学会学術集会共催シンポジウム（山田 理事）

- ・第66回日本臨床検査医学会学術集会時に開催する共催シンポジウムは「臨床化学検査の焦点」をテーマとし、山田 理事、菅野 理事で準備を進めている。

##### ②APFCB JSCC シンポジウムについて（坂本 理事）

- ・2019年11月17～20日にインドで開催される APFCB の中で JSCC シンポジウムを開催する。「Novel Biomarkers & Their Possibility from Japan」をテーマに、坂本 理事を中心に準備を進めている。

##### ③日本プロテオーム学会2019年大会共催シンポジウム（前川 代表理事）

- ・「日本プロテオーム学会2019年大会/第70回日本電気泳動学会総会」の企画として、本会との共催シンポジウムを開催したい旨提案があり、城野博史先生を中心に準備を進めている。

#### 5) 会則改定委員会について（戸塚 監事）

- ・現行の細則が現状にそぐわない部分が出てきているため、会則改定委員会を設置し、会則の見直しを進めることになった。メンバーは戸塚 監事を中心に、三井田 理事、大川龍之介先生にお願いした。理事の先生方にも意見を伺いたい。

6) その他 (前川 代表理事)

①黒住医学研究振興財団創立 25 周年記念特別研究助成金について

- ・研究が終了し、報告書を提出している。

②日本薬学会第 139 年会 共催シンポジウムについて

- ・3 月 20～23 日に千葉県で開催された第 139 回年会で、眞野 理事と城野博史先生がオーガナイザーとなり、「第 3 回臨床化学の進歩が変える薬物治療～臨床検査と薬学の融合～」というテーマで共催シンポジウムを行った。

4. 協議事項

1) 2019 年度役員について (前川 代表理事)

①代表理事指名理事

- ・前川 代表理事より小谷和彦先生、仁井見英樹先生の理事候補者推薦があり承認された。
- ・産業系理事として選出された白井秀明氏が事情により理事を辞退されたため、後任として川野克己氏が選出され承認された。

②理事会務担当

- ・新理事の会務担当について提案があり承認された。新理事の会務担当は下記のとおりとする。  
庶務：三井田孝 (順天堂大学)、会計：三浦雅一 (北陸大学)  
編集：小谷和彦 (自治医科大学)、国際交流：仁井見英樹 (富山大学)  
教育：池田勝義 (熊本科学技術大学)、学術：村上正巳 (群馬大学)  
集会・広報：川野克己 (株式会社エスアールエル)、  
法務：柴田 綾子 (慶應義塾大学病院)、会員担当：川崎健治 (千葉大学医学部附属病院)

2) 名誉会員・有功会員への移行について (前川 代表理事)

- ・名誉会員・有功会員への移行のタイミングは、評議員任期終了時としていたが、任期途中でも 65 歳以上であればよいのではという意見があった。該当する下記 5 名に移行に関する意思確認をし、承諾を得た。6 月の社員総会にて承認を得てから移行する旨提案がなされ承認された。
- ・本件については、細則改訂時に条文に追記する予定。

候補者：名誉会長 安東由喜雄先生、名誉会員 栢森裕三先生

有功会員 久保野勝男先生、小池 亨先生、清島 満先生

3) 理事選出方法について (前川 代表理事)

- ・理事の選挙は、選挙区分から会員数に応じて「2・2・2・1」として選出していた。今後は立候補制にしたかどうかという意見があり、承認された。細則改定時に項目に追加する。
- ・立候補制にした場合でも、自薦・他薦を問わず、所信表明を明確にして、業績などを提出してもらう。また、信任投票になった場合の詳細も検討する。

4) 選挙区分の表記について (前川 代表理事)

- ・選挙区分の表記がわかりづらく、自身の区分を誤って登録されている方が見受けられるため、下記のように説明を追加した選挙区分について提案がなされ承認された。

1. 大学・研究機関の臨床系

大学・研究機関の臨床系の講座、研究室 (臨床検査関連を含む)、病院に所属する医師 (非常勤も含む)

2. 大学・研究機関の基礎系

大学・研究機関の基礎系の講座に所属する者 (職種は問わない)

3. 病院系

大学・研究機関の臨床系の講座、研究室 (臨床検査関連を含む)、病院に所属する、医師以外の職種 (臨床検査技師、薬剤師など)、もしくは大学・研究機関を除く病院に勤務する者 (職種は問わない)

4. 産業学術系

協賛企業を含む産業界に所属する者

- ・三井田 理事よりフローチャートがあるとより分かりやすいという提案があり、次回選挙までに作成していただく旨依頼した。

5) 評議員推薦（前川代表理事）

- ・支部から推薦された22名のうち、評議員候補者の条件（会員歴が2年以上）を満たさない方2名については次回の推薦としていただくこととし、20名について承認された。

北海道支部：伊藤敦巳（旭川医科大学病院）、高橋祐司（北海道医療大学）、  
吉田 繁（北海道医療大学）

東北支部：小堺利恵（東北医科薬科大学病院）、藤巻慎一（東北大学病院）、

関東支部：小野佳一（東京大学医学部附属病院）、長田 誠（群馬パース大学）、

佐藤 亮（東京慈恵会医科大学附属柏病院）、三浦芳典（北里大学病院）、

渡部俊之（東邦大学医療センター佐倉病院）

甲信越支部：石嶺南生（信州大学医学部附属病院）

東海・北陸支部：滝野 豊（北陸大学）、田中靖人（名古屋市立大学大学院医学研究科）、

山中勝正（浜松医科大学医学部附属病院）

近畿支部：井上直哉（大阪大学医学部附属病院）、狩野春艶（兵庫医科大学病院）、

中国支部：石黒旭代（山口大学医学部附属病院）

九州支部：内海 健（九州大学院医）、堀田多恵子（九州大学病院）

企業懇話会：森 和雄（ニッポーボーメディカル株式会社）

6) 委員会委員候補者について（前川 代表理事）

- ・常置委員会、専門委員会とも2018年度末が任期満了となり、4月から新たな構成メンバーとなる。
- ・委員長・副委員長で評議員ではない方は、代表理事推薦の評議員とし、6月の社員総会時に承認を得ることとする。

7) 認定臨床化学・免疫化学精度保証管理検査技師制度について（松本 理事）

- ・第5回の試験では、受験者数97名のうち90名が合格（合格率は92.9%）した旨報告があり承認された。
- ・受験者数が年々増加傾向にあり、本会の会員増にも貢献している。
- ・本制度の更新に関するワーキンググループを立ち上げ、更新認定のための講習会を実施している。支部ごとの更新企画も進んでいる。

8) 認定臨床化学・免疫化学精度保証管理者制度について（松本 理事）

- ・第3回の試験では、14名の応募があり9名が合格（合格率64.3%）した旨報告があり承認された。

9) 認定臨床化学検査技師制度（仮称）について（松本 理事）

- ・臨床化学を検査する技師のための資格がないことを受け、教育委員会にて新認定制度の準備を進めており、9月22日に日本臨床衛生検査技師会（日臨技）との非公式の打ち合わせが行われた。その内容を受けて教育委員会で再度検討を進め、2月27日に再度日臨技との打ち合わせを行ったところ、下記のような提案がなされた。

①本制度の運営は日臨技の認定センターで実施する（事務手続きが大変、費用の負担が大きいのを考慮）。

②制度の一本化（臨床化学・病態・精度保証）。

③「認定臨床化学・免疫化学精度保証管理検査技師」の資格を、今後「認定臨床化学・免疫化学精度保証管理者」の資格に移行することを検討する。

- ・すでに、「認定臨床化学・免疫化学精度保証管理検査技師」を取得している方については、今後「精度保証」に関する項については免除とする予定。
- ・受験資格として、本会に入会することを必須条件とするため、今後の会員増に繋げていく。
- ・「認定臨床化学者」資格の位置づけを含め、上記資格についてもそれぞれ明確にする必要があるという意見があり、教育委員会で継続審議とする。

10) 企業懇話会規約について（山口 理事）

- ・企業懇話会の規約を改めて検討し、企業会員全員に周知したいとのことで、過去の規約を基に現行に即した内容に修正した規約が提示された。主な修正内容として、企画委員会・懇話会世

話人の任期、企業シンポジウムの費用について追記した。本規約案を年次学術集会時に開催する企業懇話会で承認を得て、学会ホームページに掲載する予定。

- ・企業シンポジウムの在り方自体は検討していく予定だが、継続はしていきたい。
- ・企業会員のメリットも必要と思われるので、あり方検討委員会でも検討する。

11) 新委員会（標準化関連）設置について（前川 代表理事）

- ・臨床化学に関する用語の統一がされていない。標準化や臨床化学に関連する用語の統一を図るため、常務理事会の下部組織としてワーキンググループを設置する。本会名誉会員の桑先生をオブザーバー、神奈川県立がんセンターの古田耕先生もメンバーにご就任いただき、活動を開始したいとの提案があり承認された。
- ・用語集を作成したらどうかという意見があった。

12) 日本臨床検査標準協議会理事候補者について（前川 代表理事）

- ・本会から植田成理事、山舘周恒先生を推薦したい旨提案があり承認された。

5. その他

- 1) 次回理事会は6月23日（日）に開催する。
- 2) 社員総会後に役員変更登記を行う。

以 上

議長

前川真人



議事録確認者

斎藤邦明



議事録確認者

坂本秀生

